

委員の活動内容と課題

	活動内容	課題
川村 委員	地域福祉の視点から孤立について取り組んでいる。中央区では難しいが、農作業を通じて役割を作り、人の役に立っている感覚を実感する取組を山梨県では実施。	地域福祉活動は、地域の特性に合った社会資源をいかに組み合わせられるか、みんなで知恵を絞ることが課題だと思う。
高橋 委員	聖路加国際大学内で、聖路加健康ナビスポット「るかなび」を開設。開設11年目を迎え、年間約3千人が来所する。60代～70代の方の利用が多い。	いろいろな高齢者と関わる中でいわゆる「キョウイク」「キョウヨウ」が大切だと感じる。「今日、行くところがある」「今日、用がある」というキーワードをもとに考えていきたい。
鈴木 委員	指定管理者として、いきいき館（敬老館）3館を運営。年間約5千講座を実施し、利用者数は11万人を超える。	いきいき館が高齢者施策の中でハブ的な役割を担っていけるようになりたい。
吉田 委員	おとしより相談センター（地域包括支援センター）の管理者をやっている。区の高齢者の総合相談窓口である。要支援1・2の方のケアプラン作成や地域ケア会議を実施している。	どこにもSOSを出せないいわゆる「埋もれている高齢者」や「まだ大丈夫だから」とサービスを受けようとする高齢者の掘り起こしが充分ではない。
八木 委員	中央区社会福祉協議会に勤務。「ほがらかサロン」「ふれあい福祉委員会」「高齢者食事サービス」「介護者交流会」などを実施。	厳しい福祉課題を抱えた、本当に孤立をしている高齢者の発見にはまだまだ至っていない。
木村 委員	民生委員、マイホーム新川のボランティア活動。また、おとしより相談センターによる地域懇談会へ出席し、地域で起こる様々な問題に対して取り組んでいる。人の役に立つ幸せを実感している。	いきいき館などに様々な事情で来れない人への対応。特に若い時からの自覚・地域の中での信頼関係（絆）が必要である。
平賀 委員	ふれあい福祉委員会、見守り活動を実施し、誕生日のお花贈呈などにより、人と人とのネットワークづくりができた。また、活動のおかげで心配な方をおとしより相談センターへ繋げることができるようになった。	地域の見守りについて、町会などの協力を得ながら、実施していきたい。

立岩 委員	地域見守り活動・高齢者クラブでの友愛を実施。いままで元気で生活していた方がふさがちとなったため、おとしより相談センターに連絡し通院を勧め、施設に入所となった。施設の皆さんによくしてもらっていると連絡があった。	今回は同性だったので深く介入できたが、異性だとどこまで介入できるかが疑問である。
川端 委員	町会活動を行っている。盆踊り・餅つき大会など活発に活動している。町会役員の中には、役割（仕事）が与えられることにより、自分の価値を見出すことができ、元気になる人もいる。	最近地域に入ってきた方の中にはせつかく隣近所の煩わしい付き合いを避けて都心のマンションに引っ越したのだから町会に入りたくないという方もいる。
安西 委員	高齢者クラブとふれあい福祉委員会の活動に町会としても協力している。お節介焼きが多い地域のため、お祭りや行事の時はひとり暮らしの方の自宅に迎えに行くこともある。	路地にあった長屋が減り、30階40階の高層マンションに移り、孤独になってしまった例もあると聞いている。
小倉 委員	ほがらかサロンで活動。現在、京橋、日本橋、佃、月島の4カ所で実施しており、待機状態の地域もある。昼食をはさみ、折り紙、歌、体操などを行っている。	サロンで他の参加者と情報交換をすることにより活動範囲が広がっていくと感じるため、だれでも参加できるサロンがいろいろな場所にあれば良いと感じる。
小川 委員	高齢者クラブで活動。区内に高齢者クラブは61団体ある。福祉まつりへの参加や花の種の配布などで高齢者クラブを周知し、会員を募集している。	さまざまな機会に会員募集をしているが、高齢者クラブの会員がなかなか増えないことが課題である。
佐久間 委員	高層マンションの自治会で新聞を製作。現在9千部配布。読者からもさまざまな情報が入り、記事を掲載している。	高層マンションにはオートロック等で新聞が配れないところがある。なんとか新聞を通じて、コミュニティをつくっていきたい。